



こじにこじは

納得したうえで、よりよい医療を! 模擬診察の患者役を養成・派遣

「静岡医療コミュニケーション研究会」代表 森田みつ子さん

あなたは、自分の症状や心配に思っていることを、医師や看護師に上手に話すことができるますか?なかなか思い通りに伝えられないのが実情でしょう。

実は、医療者も、意志疎通を十分なものにして、患者の思いを受け止めることの大さを痛感しています。模擬患者を使った模擬診察を行う研修会などで、見学者を含めた参加者が意見交換をすること

が、患者と医療者の相互理解を深めるよい勉強になってるそうです。その研修会で大きな役割を果たしているのが、「SMC(静岡医療

もりた みつこ

薬剤師、調剤薬局勤務。通信制大学の心理学科在学中。一男一女の母。静岡市保健所主催の研修会に参加し、模擬患者役を体感。それを契機に研究会の設立に参加。「患者役をすることで、医療者としての自分を見つめ直すことができる」と。「SMC(Shizuoka Medical Communication)」に興味のある人は、森田さんまで。eメール: inquiry@smc-jp.com ホームページ: <http://smc-jp.com/>

が、患者と医療者の相互理解を深めるよい勉強になりました。医療機関、医科大学、薬学部、看護学部などから要請で、ニーズに合った患者の症状や患者背景までシナリオを作り、練習、検討を重ねて患者役になりります。何度も打ち合わせをするんですよ」「最近では、医療系学生のための『客観的臨床能力試験』や新薬が国(厚生労働省)から承認を得るために行われる臨床試験『治験』への協力、医療者への不満や不安をもつ患者への対応など、要請の方にも変化を感じます。一人一人の患者さんが納得したうえで、よりよい医療が受けられるよう、活動しています」(青陰悦子記者)